





動的解析結果のディジタルデータを得るためには How can we get digital data of the response?

●DYMOをインストールしたフォルダ に"SpecialDYMO.ini"というファイルを作る。空ファイル で良い。

●この空ファイルが作られていれば、「非線形動的解 析」->「安全性の照査」画面の「結果のファイル出力」 ボタンが出てくる。

●「結果のファイル出力」ボタンをクリックすると、今開いているデータファイルのあるフォルダー に"OutType1.csv"(タイプ 地震動の結果) と"OutType2.csv"(タイプ 地震動の結果)というファイ ルが出力される。



17-18 	6 C 50446 423000 40200 0.00713 44400 C		-1×89	×.	0	**	Deck Displacem
時間 の力返り	行の変位	橋脚上端の変位	支承の相対変位	支承の作用力	橋脚基部の曲率	橋脚基部の曲げモーメント	Displacement at top of column Bearing displace Bearing force Curvature at the plastic hinge of column Moment at the plastic hinge of column

DYMOを使った解析

●計算例2を読み込む

●構造条件の入力ーほとんどはディフォルトデータでよい。 ただし、支承条件は、"固定支承"、"弾性ゴム支承"、"免 震支承"にする

●固有振動解析の中では、以下の点を試してみる。

✓固有周期、固有振動モード、刺激係数の理解

✓減衰の設定では、どの固有振動モードに着目するかを変えてみる。、の値もチェックしてみる。

●入力地震動として、道路橋示方書の参考資料に示さ

れている標準波形がすぐ読み込めるようになっているの で、このタイプ とタイプ 地震動を使用する。 ●タイプ 地震動とは、加速度応答スペクトルで約1g の地震動、タイプ 地震動とは加速度応答スペクトル で約2gの加速度である。ただし、地盤種別で異なる

●"安全性の照査"の中に"結果のファイル出力"ボタンを 押すと、応答値に関するエクセルデータが得られる。こ れをもとに、自分で、応答波形をプロットしてみる。ただ し、動的解析結果のディジタルデータを得るためには、 p.8の対応が必要である。

●応答波形をまとめて、課題として提出する。